



小論文問題用紙

【設問】 次の文章を読んで、

- (A) 筆者が、「リアルなコミュニケーションの重要度が増す」と主張するのはなぜか、本文をふまえ、八十字以上百字以内で述べなさい。
- (B) あなたはこれまでにどのような「アウトプット力」を発揮したか、本文をふまえ、具体的な体験を交えて五百字以内で述べなさい。

2020年以降、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、テレワークやオンライン授業を行う会社や学校が増えました。

こうした動きは、今後ますます進んでいくことでしょう。

子どもや若者の世界でも、「オンライン化」は確実に進んでいます。もうすでに、友だちと直接会って話す時間よりも、家に帰ってLINEでやりとりする時間の方が長い、という人もいるかもしれませんね。

このように、リアルなコミュニケーションの割合がどんどん減ってきています。

では、リアルなコミュニケーションは、これから必要なくなるのでしょうか？

いえ、そんなことはありません。むしろ、コミュニケーションのオンライン化が進めば進むほど、リアルなコミュニケーションの重要度が増す、と私は考えています。

どうということでしょうか。

テレワークやオンライン授業では、相手の細かい表情や微妙なニュアンスはわかりにくいですよ。つまり、こちらのニュアンスも伝わりにくいということです。

オンライン会議に必要な環境も整ってきましたし、メールやメッセージも使えるのですから、物理的にはうまくいくはず。でも、多くの人が「スムーズに話が進まない」というコミュニケーション不全を抱えています。実は、普段の生活では、何気ない立ち話や気軽な雑談が、私たちのコミュニケーションを円滑にしてくれているのです。

たとえば、何かを提案する際には、雑談の中で事前にさりげなく話しておくとか、相手の気持ちや立場を知っておくことができれば、話が通りやすくなります。

これまでは深く考えずに、無意識にそうしたやりとりができていましたが、オンラインのコミュニケーションでは、そうした微妙なやりとりがとてもしにくいのです。

また、これまでは平日に5日間会っていた人たちと、オンライン化によって週に1日しか会わなくなったとします。

会う時間が5分の1になったということは、その5分の1の時間で、相手にきちんと伝わるように話しておかなければいけないということ。つまり、今まではコミュニケーションがそれほど上手ではない人でも「量」でカバーできていたものが、量が減った分、「質」で勝負しなければいけないのです。

オンライン化が進めば進むほど、短い時間でもうまくコミュニケーションできる人が重宝されるようになる、ということです。

インプットとアウトプットは、別の言い方に置き換えることができます。

- インプット → 受動型 (人に言われた通りやる)
- アウトプット → 能動型 (自分で考え、自分から動く)

つまり、「その人の生き方」そのものを指すということです。

今までの日本社会では、「受動型の生き方」の人が、うまくいっていました。

親の言う通りに行動し、先生の教える通りに勉強し、会社に入ってから、上司からの命令通りに仕事をす。教科書に書いてあることをそのまま暗記すれば高得点をとれる。そういう人が優秀だといわれていました。

でも、これからはまったく違います。

2020年代のこれから、AI（人工知能）はさらに急激に進化していくといわれています。

今の中学生が就職する頃には、あらゆるものに組み込まれたAIが、人間と同等かそれ以上の知能を獲得し、人間の代わりに仕事をするようになります。どの業界でもデジタル化、オンライン化、AI化、ロボット化による大再編が起こり、誰もが環境の変化に巻き込まれるのです。

AIの大きな特徴は、膨大なデータ（ビッグデータ）を短時間で分析し、関連性を見だし、結果を予測できることです。

しかし逆をいえば、AIは今まで一度も起きていない出来事に対しては対処できないということです。何もなるところから新しいものを作り出すこともできません。

それをできるのが、人間です。

誰も持っていない便利な道具を考えると、か、新しい商品を開発する、世の中になかったサービスを生み出すなどの仕事は、今のところ「人間」にしかできません。

つまり創造力や発想力、論理的思考力、判断力、実行力、人を説得する力といった、いわば「0を1にする力」が、これからの人間に求められるのです。

こうした力こそ、まさにアウトプットの神髄といえます。

今、アウトプットの重要性に注目しているのは、ビジネスの分野だけではなく、2021年度からの大学入学共通テストや新学習指導要領でも、思考力、判断力、表現力を重視することが発表されています。受験や学校教育の場においても、アウトプット力が重視される時代になっているのです。

皆さんの中には、テストの問題を解くのは得意なのに、自由に書ける作文、小論文は苦手、という人も多いのではないのでしょうか。

これからは、自由な発想と、それを表現する力が求められる時代です。ですから、今後は学校の勉強もアウトプット型に変わっていくでしょうが、それだけでは不十分。自分自身でも、アウトプットのトレーニングをしていく必要があります。

そもそも、アウトプットのトレーニングは、人からやらされる「受け身」の状態では、効果は出ません。楽しみながら自発的にアウトプット力を強化していくことで、自分の能力を最大限に発揮することができるのです。

（樺沢紫苑『^{ちきり}極アウトプット「伝える力」で人生が決まる』より一部を改変した）